



「古屋まさお」とともに歩む

友雅会ニュース

発行元：友雅会

〒405-0007
山梨県山梨市七日市場816-7
TEL 0553-23-6688
FAX 0553-22-3700

■発行責任者：古屋 雅夫
「新年度も新たな気持ちで
頑張ります」

＜平成22年3月議会＞

新・竹越市長の提案した予算（骨格）、 関連条例等を原案通り議決する



古屋まさお議員

3月5日（金）平成22年3月定例議会が本開会され、3月23日に、19日間の会期を終えた。今回は4月1日に行われる市役所の機構改革（組織整備）などを考慮し、効率的、効果的議会運営より、通常より日程を短縮した開催となった。

また、竹越市長にとっては初の議会であり、就任期間が短いことから、①決算に向けた補正予算、②平成22年度予算（義務的経費を含む経常経費と継続事業経費のみの骨格）、③関連条例等41議案の議決を図った。今回の市政報告・「友雅会ニュース」は3月議会、全体の主要事項について記載しました。

竹越市長の市政運営への基本姿勢

- ①第1次総合計画の将来像「人・地域・自然が奏でる 和みのまち山梨」は、私（竹越）がモットーとする「思いやり」と「支えあい」に合致するものである。総合計画の推進を図っていく。
- ②事業推進にあたって住民・地域からの行政ニーズを的確に把握、限られた財源を、必要度の高いところから公正、公平に充当していきたい。
- ③財政状況は国、地方を通じて大変厳しいと認識する。したがって堅実財政運営、着実な市政運営が欠かせない。「奇を衒うよりも、地道を優先したい」
- ④政治スタンスは市政運営において一党一派に偏らないことが肝要。所属政党について離党していることを明らかにしておく。
- ⑤具体的施策等は市長就任から間もないことから6月議会で提案する。

●平成22年度一般会計予算のポイント●

①予算は、義務的経費を含む経常経費と継続事業経費のみの骨格予算として計上。②新規事業（基盤整備、ソフト事業等政策予算）は6月補正予算で対応、③予算総額148億16百万円（前年度△0.34%50百万円減）

■主な歳入

- ◇市税37億43百万円（△5%）／景気後退による個人・法人税の減
- ◇地方交付税57億20百万円（5%増）／地域活性化・雇用等臨時特例費の新設による「普通交付税」の増
- ◇国庫支出金14億64百万円（33.6%増）／子ども手当創設に伴う増
- ◇県支出金8億30百万円（0.3%増）／知事、県議選による委託金の増、合併特例交付金の終了に伴う減
- ◇市債12億53百万円（△7.1%）／臨時財政対策債の増、合併特例債、過疎債等事業債の減

■主な歳出（構成比10%以上の経費）

- ◇総務費15億30百万円（6.2%増）／子ども手当一括計上による人件費、地域交流センター等の固定資産税評価替準備経費等の増
 - ◇民生費46億97百万円（15.3%増）／子ども手当の創設、生活保護者等の増、保険給付金等繰出金の増
 - ◇土木費15億16百万円（△26.4%）／まちづくり交付金の終了、事業仕分けによる補助制度未確定に伴う減
 - ◇教育費15億41百万円（△4.4%）耐震補強工事実施による修繕、指定管理者・業務委託による経常経費の減
 - ◇公債費24億2百万円（3.2%増）※2010年度末地方債残高228億53百万円
- ◎歳出における主な事業は裏面に掲載します。



竹越市長



代表・一般質問（主な事項）

●「環境都市宣言」の考え方は

（市）「環境都市宣言」については、市民の気運の盛り上がりのなかで制定するのが望ましいので、様々な角度から研究・考えていく。

●過疎地域自立促進計画について

※12月議会「古屋まさお」市議提案の具体化（市営バス関連）

（市）①市営バスについては、明年度、高齢者等交通弱者に配慮した運行ルートの見直し、JRのダイヤ改正に合わせた発着時刻の見直し、要望事項を精査するなかで、市民の要望に沿った市営バス運行の具体的な検討に入りたい。

②改正法（過疎）のソフト事業については、現計画における未実施事業を含め、過疎債の活用が見込める事業を精査して、財政状況の推移を見極めながら、6年間の年次計画書を策定していく。

●“人々が集う活力に満ちたにぎわいのまちづくり”について

（市）現在まで、新規企業を対象として、HPでの情報発信や優遇制度の創設、企業誘致フェアへの参加による情報提供の促進などの取り組みを行ってきた。

厳しい状況であるが、今後も旧庁舎で事業活動を開始した誘致企業へ更なる事業拡大と市内雇用の拡大をお願いしていくとともに、市内にある農工団地への企業誘致の促進を図っていききたい。

●歳出における主な事業●

- ・子ども医療費助成事業（89百万円余）
- ・子ども手当支給事業（児童手当含む）（6億52百万円余）
- ・子育て用品支給事業（2百万円余）
- ・母子家庭自立支援給付事業（5百万円余）
- ・妊婦健康診査事業（23百万円余）
- ・不妊治療助成事業（50万円）
- ・新エネルギー推進事業（10百万円余）
- ・団体営土地改良事業（15百万円余）
- ・主要道路整備事業（3億79百万円余）
- ・小中学校要保護・準用保護就学支援事業（33百万円余）
- ・根津記念館（各種イベント）事業（4百万円余）
- ・防災無線同報系本統合整備事業（76百万円余）

また、新年度は緊急雇用創出事業を導入して、様々な観点から誘致活動を行うことによって、新たな雇用機会と就業機会の創出や、産業の育成支援に取り組む。

●山梨県災害ヘリポート新設について（牧丘市有林の誘致を）

（市）県の災害ヘリポート新設計画の詳細を見極めて対処していきたい。

●特別養護老人ホーム待機者の解消策について

（市）平成22年度から2年の間に、小規模な特別養護老人ホームなど、5種目6施設、合計定員113人の地域密着型介護サービス施設を、事業者指定して整備を予定しており、待機者の減少に努めていきたい。

●山梨市長期道路網整備計画に基づく東山梨駅周辺整備及び南反保のまちづくり事業の地域について

（市）効果的な整備手法、市全体の財政状況などを踏まえ、事業課題を整理する中で、市としての一定の方向を定めていく。

常任委員会等の審査・論議状況(一部)

●平成22年度緊急雇用創出事業について

（市）委託分20名141,682千円、直営分（市役所）56名53,036千円として予算計

上し雇用する考えである。

●市長の交際費について

（市）平成20年度（280万円）、平成21年度（230万円）、平成22年度は200万円と予算を減額してきている。本市では慶弔日費、各地区の行事会費であり、葬儀では線香に変えるなど工夫し削減を図ってきている。

●緊急医療体制（夜間）の充実について

平成22年度から新たに緊急医療の充実にむけ、夜間（午後7時～11時）現行1名体制の医師を東山梨医師会の協力を得て2名体制としていく。

●「古屋まさお」議員新任務に就く総務常任委員会・副委員長の任を担うこととなった。



友雅会・市政報告会（3月26日）

★★★★★ 「友雅会ニュース」あとがき ★★★★★

古屋まさお市議も議員として1年を迎えようとしております。

この1年、市民の目線で積極的に代表質問・一般質問に計3回立ち、政策提起を行ってきました。また、市民のみなさまに対しては「友雅会ニュース」の発行、ホームページによる情報の共有化図ってきました。今後も市民と一緒に山梨市のまちづくり、市政の発展を目指していきますので引き続きよろしくお祈いします。

◎ご意見・ご要望は0553-23-6688までお寄せください。 <http://www.e-masao.net/>